

# netWIN GSテクノロジー株式ファンド

Aコース(為替ヘッジあり) / Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信 / 海外 / 株式

※「netWIN」は、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社の登録商標です。  
netWIN GSテクノロジー株式ファンドAコース(為替ヘッジあり)およびBコース(為替ヘッジなし)とnetWINテクノロジー株式マザーファンドを総称してnetWINといいます。

お申込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。  
「投資信託説明書(交付目論見書)」は販売会社までご請求ください。

■本資料はゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」といいます。)が作成した販売用資料です。投資信託の取得の申込みにあたっては、販売会社より「投資信託説明書(交付目論見書)」をお渡しいたしますので、必ずその内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■本ファンドは値動きのある有価証券等(外国証券には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。■投資信託は、預金等とは異なります。■投資信託は、元本や分配金の保証はありません。■投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うことになります。

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

**MIZUHO** みずほ証券

商号等 みずほ証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号  
加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会



投資信託20年部門  
最優秀ファンド賞  
R&I Fund Award 2023

(2023)部門名:投資信託20年/北米株式グロース部門 賞名:最優秀ファンド賞  
(2021)部門名:投資信託/北米株式グロース部門 賞名:優秀ファンド賞  
(2020)部門名:投資信託/北米株式部門 賞名:最優秀ファンド賞  
(2019)部門名:投資信託/北米株式部門 賞名:最優秀ファンド賞  
(2018)部門名:投資信託/北米株式部門 賞名:最優秀ファンド賞  
(2017)部門名:投資信託/北米株式部門 賞名:優秀ファンド賞  
すべてBコース(為替ヘッジなし)

# Connect THE FUTURE

それは、ITが変える未来への投資。

「R&Iファンド大賞」は、R&Iが信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&Iが保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&Iに帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。最終ページの※R&Iファンド大賞2023もあわせてご覧ください。2021年以前の選考方法等詳細は、R&Iのホームページをご確認ください。

評価基準年月日:2023年3月末、2021年3月末、2020年3月末、2019年3月末、2018年3月末、2017年3月末

■ 設定・運用は

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

商号等 ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第325号  
加入協会 日本証券業協会 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会



Connect  
**THE FUTURE**

時代、時代です。星のごとく現れては、  
最先端のテクノロジーと先見性のあるアイデアで  
世界中を魅了し、急成長を遂げるイノベティブ・カンパニー。

こうした企業に共通していることは、  
進化するテクノロジーを革新的なビジネスに変えるアイデアを持っていること。  
いまある常識を壊し、新しい常識を生み出せる力を備えていること。  
そして、人々の暮らしにかつてない価値をもたらすこと。

IoT、クラウド・コンピューティング、AI…  
つぎはどんなテクノロジーが世界を驚かせるのか。  
netWINは、長期的な成長を期待できる  
イノベティブ・カンパニーを発掘し、あなたの投資の力になる。

それは、ITが変える未来への投資。

**netWIN™**

netWIN GSテクノロジー株式ファンド

Connect  
THE FUTURE

## 小売 × テクノロジー

ネットで注文すると、あらゆる商品が 30 分以内で届く。小型無人飛行機（ドローン）を使用した配達サービスが、今実用化に向けて進んでいます。また、レジでの精算なしで買い物ができるサービスなど、テクノロジーの力でショッピングがさらに便利な世の中へと変わります。



ネット注文したら

空から荷物が届く。

そんな未来が進んでいる。

Connect  
THE FUTURE

## 金融 × テクノロジー

レジでの支払いは、ほんの一瞬、スマートフォンをかざすだけ。テクノロジーの進化で、財布を持ち歩く必要のない時代になりつつあります。友人との食事会では、モバイル送金すれば、現金要らずで精算完了。家計の管理から資産運用の指図まで、お金に関することはすべて、財布なしでも完結できるよう進化します。

テクノロジーの発展で、

「財布」というモノが  
ポケットから消える日が  
やってくる。

未来はもっと豊かになる。

Connect  
THE FUTURE

## 自動車 × テクノロジー

行き先を告げるだけで、クルマが自動で目的地まで連れて行ってくれる。自動車メーカーやテクノロジー関連企業が独自に、または協業し、完全自動運転車の開発に邁進しています。テクノロジーは自動運転だけでなく、交通インフラにも革新をもたらし、その先には、事故や渋滞のない世界がきっと待っています。



クルマから

「運転」という概念が、  
近い将来なくなる。

指一本で巨大工場を操作。

未来の製造業は

ソフトウェアの塊になる。



Connect  
THE FUTURE

## 製造 × テクノロジー

あらゆる作業が自動化されていく。長時間の単純作業も、危険な現場も、ヒトに代わってロボットが解決してくれる。目の前の機械はもちろん、地球の裏側で稼働する機械ですら、故障する前にその兆候をセンサーが察知し知らせてくれることで、生産効率は大きく上がります。

革新的なテクノロジーが  
あらゆる産業に  
変革をもたらしている。

ロボティクス  
Robotics

オンライン  
広告  
Online AD

Eコマース  
E-Commerce

製造

広告

メディテック  
MediTech

小売

医療

テクノロジー  
TECHNOLOGY

金融

自動車

フィンテック  
FinTech

自動運転車  
Self-Driving Car

アグリテック  
AgriTech

農業

教育

エドテック  
EdTech

Connect  
THE FUTURE

最先端のテクノロジーが、いつの時代もnetWINの力になる。

POINT **1**

## 先見性 VISIONARY

常に時代の先を見据え、一步先の投資テーマ（革新的技術）を追求

インターネット普及期の2000年前後にはブロードバンドやケーブルTVといったインターネット・インフラ等に注目。アクセス端末がPCからスマートフォン等モバイル機器にシフトした2010年前後にはスマートデバイスやクラウド・コンピューティング等に着目。現在は、AI（人工知能）、半導体、クラウド・コンピューティングなどの投資機会に注目しています。

POINT **2**

## 長期の運用実績 LONG TRACK RECORD

20年を超える長期の運用実績を誇る業界有数のファンド

1999年11月設定。20年を超える運用実績を誇る、業界のITセクターファンドを代表する長寿ファンド。変化の速い米国テクノロジー関連企業を主な投資対象とするなかで、常に一步先の革新的技術をとらえる運用を20年超にわたり継続してきた強みがあります。

POINT **3**

## 一貫性 CONSISTENCY

一貫した投資哲学に基づき運用

いつの時代も、持続可能かつ継続的な収益拡大を実現する企業には、共通の強みがあります。技術革新が速く企業の栄枯盛衰の激しいIT業界だからこそ、一貫した投資哲学に基づき、長期的な視点で成長性の高いビジネスに投資します。

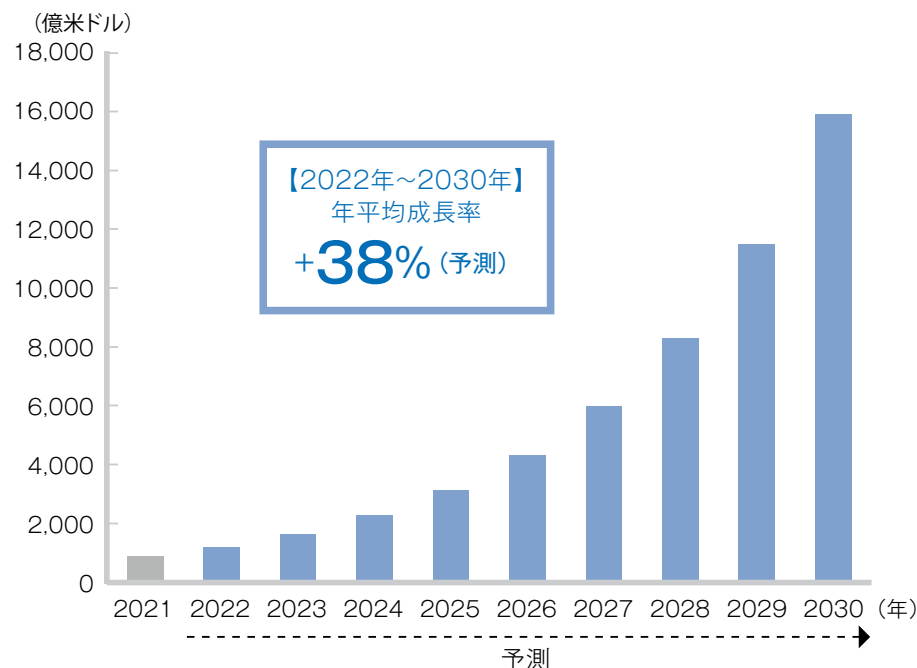
それは、ITが変える未来への投資。 **netWIN™**

## 世の中への浸透が進むAI

- ▶ 人間の思考プロセスを人工的に再現するAIは、その高いデータ分析・処理能力などを背景に、私たちの身の回りの生活や企業活動などの幅広い分野で浸透しつつあります。
- ▶ ジェネレーティブAI(生成系AI)の出現を皮切りにAIの活用はますます拡大することが期待され、ソフトウェアや半導体などの関連市場はさらなる発展を遂げると見込まれています。



### 世界のAI市場規模の推移



期間：2021年～2030年(2022年以降は2022年6月時点のGlobeNewswire(米国の情報配信会社)の予測値)  
出所：GlobeNewswire、Statista

上記は経済や市場等の過去のデータおよび一時点における予測値であり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。  
経済、市場等に関する予測は資料作成時点のものであり、情報提供を目的とするものです。予測値の達成を保証するものではありません。  
ポートフォリオにおける保有銘柄あるいは過去の投資判断についての言及は、本資料で紹介している投資戦略あるいは投資アプローチをご理解いただくための例示を目的とするものであり、投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
例示された個別証券は、必ずしも現在あるいは将来の保有銘柄であるとは限らず、また当該投資戦略に関する投資判断を代表するものでもありません。

### 【ご参考】組入銘柄のご紹介 (2023年5月末時点)

#### マイクロソフト

##### AI関連サービスを展開する大手ソフトウェア企業

- ▶ PC向けのWindows OSや業務用ソフトのOfficeで高い市場シェアを誇り、不動の地位を築いている世界最大級のソフトウェア企業。
- ▶ 近年、クラウド事業の拡大に加えて、AI研究の最前線に立ち、強力で先進的なAIテクノロジーを自社の製品やサービスに統合することに注力している。



#### アルファベット

##### グーグルを傘下に持つ巨大テクノロジー企業

- ▶ 検索エンジンのGoogleやYouTubeなどにおけるオンライン広告を主たる収益源とする企業。
- ▶ クラウド事業が新しい収益源として成長するなか、AI開発も積極的に行うことでさらなる収益の拡大を目指す。



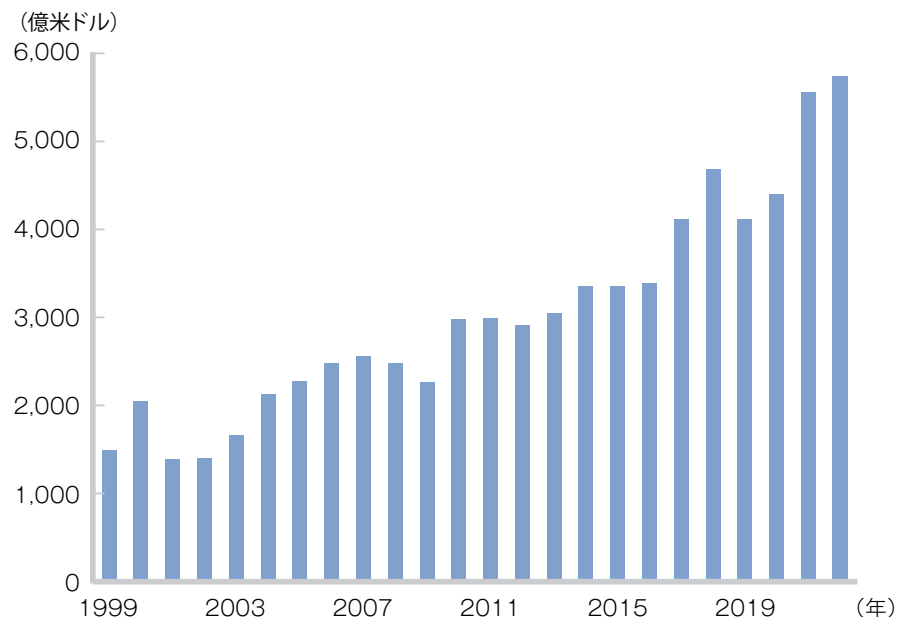


## テクノロジーの革新を支える半導体

- ▶ テクノロジーの革新を根幹から支える半導体はあらゆる産業において不可欠な存在です。活用される機会が足元でさらに広がり、その重要性は高まっています。
- ▶ IoTの浸透により需要の拡大が見込まれることに加え、EV（電気自動車）や自動車の電装化、エネルギーの効率化に資するパワー半導体など構造的に成長が期待される分野が存在しています。

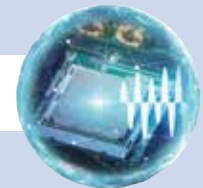


### 世界の半導体市場規模の推移



### 【ご参考】組入銘柄のご紹介 (2023年5月末時点)

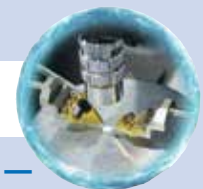
#### エヌビディア



#### AIなどの先端テクノロジーを支える半導体企業

- ▶ 画像処理に特化した半導体や関連ソフトウェアの開発を主力とする企業。これまではPCやゲームなどに向けた画像処理の半導体の製造により成長してきた。
- ▶ 近年ではAIなど先端のテクノロジーの発展を支える役割を担っており、自動運転やデータセンターなど幅広い分野にわたるソリューション提供により成長することが期待される。

#### KLAコーポレーション



#### 半導体製造の効率化を担う検査・計測装置メーカー

- ▶ 半導体、プリント基板製造に関する検査・計測装置のリーディングカンパニー。半導体製造における歩留まり改善に貢献してきた。
- ▶ 小型化、高性能化を目指し、半導体製造企業が半導体の微細化に対する積極投資を続けるなか、検査・計測装置で圧倒的なシェアを誇る同社もその恩恵を受けることが期待される。

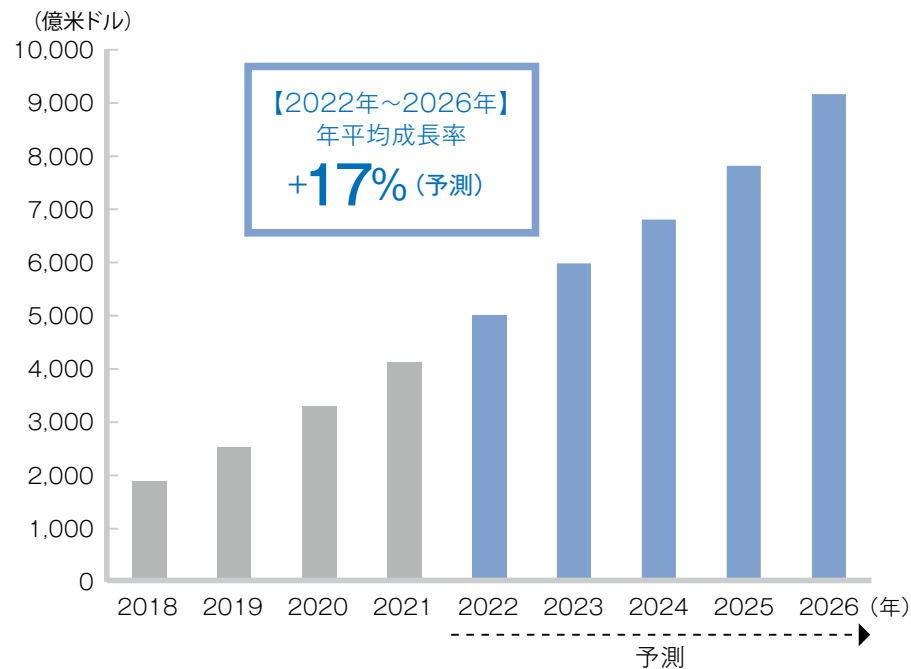
上記は経済や市場等の過去のデータであり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。ポートフォリオにおける保有銘柄あるいは過去の投資判断についての言及は、本資料でご紹介している投資戦略あるいは投資アプローチをご理解いただくための例示を目的とするものであり、投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。例示された個別証券は、必ずしも現在あるいは将来の保有銘柄であるとは限らず、また当該投資戦略に関する投資判断を代表するものでもありません。

## IoT時代を支えるクラウド・コンピューティング

- ▶ 世界的な「所有から利用へ」という流れのなかで、膨大なデジタルデータをネットワーク上に蓄積・保管し、スピーディに処理できるクラウド・コンピューティングの利用が加速しています。
- ▶ 今後もIoT (モノのインターネット) の浸透がますます進むことが予想されるなか、クラウド市場はさらなる成長を遂げると見込まれます。



### クラウドサービスの世界市場規模の推移

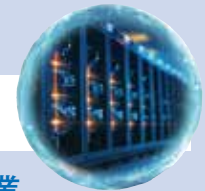


期間：2018年~2026年 (2022年以降は2023年時点のOmdia (英国の調査会社) の予測値)  
出所：総務省「令和5年版情報通信白書」

上記は経済や市場等の過去のデータおよび一時点における予測値であり、将来の動向を示唆あるいは保証するものではありません。  
経済、市場等に関する予測は資料作成時点のものであり、情報提供を目的とするものです。予測値の達成を保証するものではありません。  
ポートフォリオにおける保有銘柄あるいは過去の投資判断についての言及は、本資料でご紹介している投資戦略あるいは投資アプローチをご理解いただくための例示を目的とするものであり、投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
例示された個別証券は、必ずしも現在あるいは将来の保有銘柄であるとは限らず、また当該投資戦略に関する投資判断を代表するものでもありません。

### 【ご参考】組入銘柄のご紹介 (2023年5月末時点)

#### エクイニクス



#### クラウドの浸透を支えるデータセンター運営企業

- ▶ データセンターの保有、リースおよび関連サービスを行うグローバルなデジタルインフラ企業。
- ▶ クラウドなどのサービスプロバイダーを相互接続できるデータセンター機能を世界中で提供しており、クラウド拡大による恩恵を受けると考えられる。

## 分配金再投資基準価額と組入銘柄の変遷



期間：1999年11月29日(設定日)～2023年5月末 出所：ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント ※企業名は各時点における名称を記載しています。また、企業名の後ろの( )内は各時点における事業内容を示します。上記は過去のデータであり、将来の結果を示唆または保証するものではありません。

投資価値および投資によってもたらされる収益は上方にも下方にも変動します。この結果、投資元本を割り込むことがあります。

上記の分配金再投資基準価額は信託報酬控除後のものです。

分配金再投資基準価額とは、本ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(税引前)で本ファンドを購入(再投資)した場合の基準価額です。

ポートフォリオにおける保有銘柄あるいは過去の投資判断についての言及は、本資料でご紹介している投資戦略あるいは投資アプローチをご理解いただくための例示を目的とするものであり、投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

例示された個別証券は、必ずしも現在あるいは将来の保有銘柄であるとは限らず、また当該投資戦略に関する投資判断を代表するものでもありません。

**特色 1** 主にテクノロジーの発展により恩恵を受ける米国企業の株式に投資します。

**特色 2** 「よりよい投資収益は、長期にわたって成長性の高い事業へ投資することにより獲得される」との投資哲学のもと、個別銘柄の分析を重視したボトムアップ手法により銘柄選択を行います。

**特色 3** Aコース(為替ヘッジあり)、Bコース(為替ヘッジなし)の選択が可能です。

※主要な投資対象とする米国企業には、メディア、テレコミュニケーション、テクノロジー、サービス等のセクターにおいて、インフラ、コンテンツ、サービス等を提供する企業を含みます。

※Aコースは、対円での為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。なお、為替ヘッジにはヘッジ・コストがかかります。ヘッジ・コストは、為替ヘッジを行う通貨と円の短期金利の差が目安となり、円の短期金利のほうが低い場合、この金利差分、収益が低下します。Bコースでは、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

※販売会社によっては、いずれかのコースのみのお取り扱いとなる場合があります。

※本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。

市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

## ▶ 銘柄選択のポイント

本ファンドでは、主に米国を中心とした「テクノロジー・トルキーパー」企業など、テクノロジーを活用することで、コスト構造、収益性、競争優位性の改善や維持が期待できる企業や、ビジネス・モデルの継続性が期待できる企業の株式に投資します。

### 「テクノロジー・トルキーパー」企業

本ファンドでは、テクノロジー業界において、高速道路などの「料金所」のように「交通量」(=売上げ数量)の増加や「通行料」(=価格)の値上げによって収益を上げることのできる企業を「テクノロジー・トルキーパー」企業と呼びます。



#### 「テクノロジー・トルキーパー」企業のイメージ

##### ✕ 高速道路の建設業者

- ・収益機会は建設時の一度きり
- ・交通量が増えても恩恵を受けない

ではなく

##### ○ 高速道路の料金所

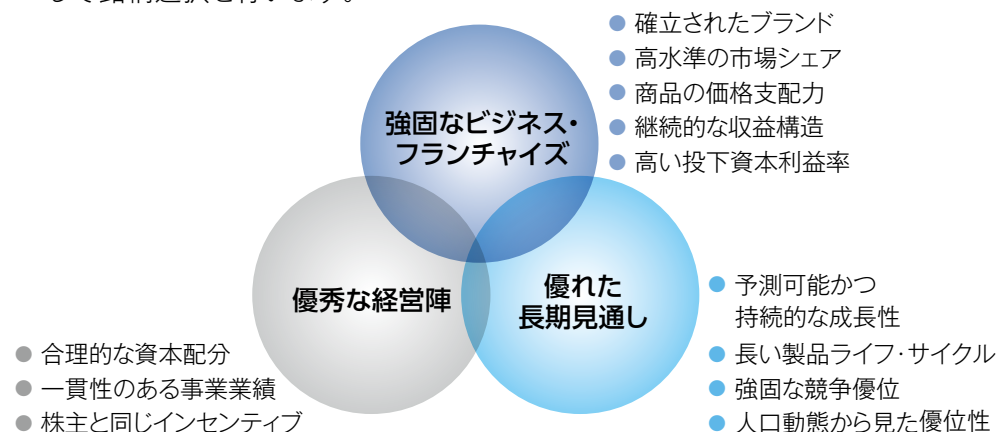
- ・通行料という継続的な収入源
- ・交通量が増えれば収入増

上記はイメージです。

※「テクノロジー・トルキーパー」はゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社の登録商標です。

## 銘柄選択のポイント

本ファンドでは、持続可能かつ継続的な収益拡大が見込める企業に着目して銘柄選択を行います。



上記は、持続可能かつ継続的な収益拡大が見込める企業についての一般的な特徴をまとめたものであり、必ずしもすべての組入銘柄にあてはまるものではありません。

## ▶ 運用会社の紹介

約150年の歴史を誇る  
ゴールドマン・サックスの資産運用部門

**GOLDMAN  
SACHS  
ASSET  
MANAGEMENT**

数字で見るゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント



受託資産残高 約 **303** 兆円



グローバル  
ビジネス拠点 約 **50** 拠点



社員数 約 **2,000** 人

2022年12月現在。受託資産残高は1米ドル=131.945円で円換算(出所:WMロイター)。

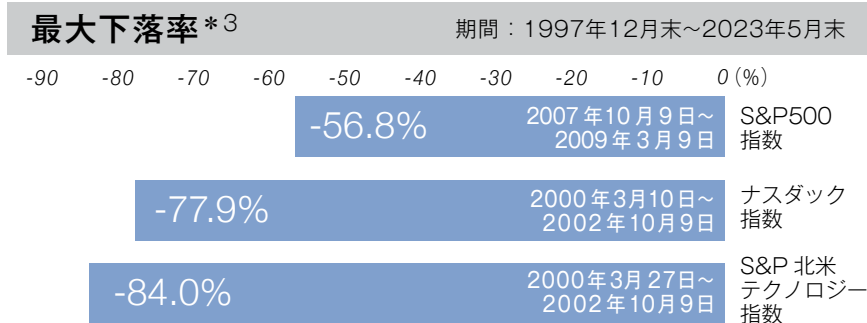
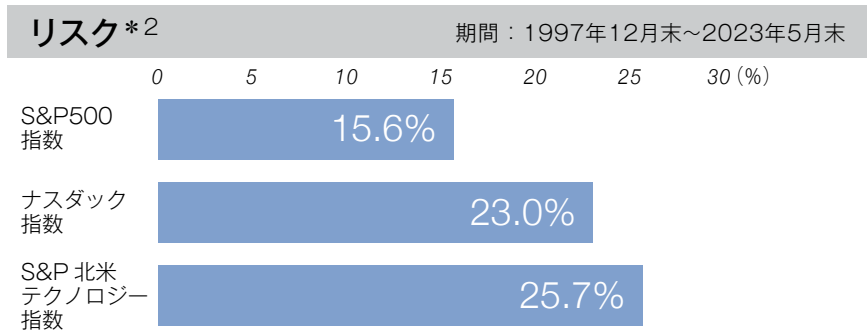
- ▶ ITバブル崩壊の過程で、S&P北米テクノロジー指数やナスダック指数は、最大でそれぞれ▲84.0%（2000年3月27日～2002年10月9日）、▲77.9%（2000年3月10日～2002年10月9日）の下落率を記録しました。
- ▶ テクノロジー関連株式から構成されるS&P北米テクノロジー指数や、テクノロジー関連株式の構成割合が相対的に高いナスダック指数は、幅広い業種から構成されるS&P500指数と比較して、相対的にリスク（価格変動性）が高い傾向がありますのでご注意ください。

## S&P500指数とテクノロジー関連株指数の推移（米ドル・ベース）



\*1 企業が営業活動で稼いだ資金から投資に回した資金を差し引いた余剰の資金を指します。  
 期間：1997年12月末～2023年5月末（1997年12月末を100として指数化）  
 出所：ブルームバーグのデータに基づきゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント作成

## リスクと最大下落率（米ドル・ベース）



\*2 リスクは価格変動性のことで、上記では月次リターンより算出した年率標準偏差で表しています。標準偏差とは、全体の結果が平均の近くにまとまっているか散らばっているかを表す指標です。例えば、ある市場のリターンの標準偏差が小さければ小さいほど、日々のリターンは平均リターンの近くにまとまり、それだけリスクの小さい市場であるといえます。また、ある市場のリターンの標準偏差が大きければ大きいほど、日々のリターンは平均から散らばったものとなり、それだけリスクの大きい市場ということになります。

\*3 最大下落率は、計算期間における過去の最高値から、その後下落した際の下落率の最大値をいいます。

上記の指数は、本ファンドのベンチマークではありません。指数には直接投資することはできず、取引コストや流動性等の市場要因なども考慮されておりませんので、実際の取引結果とは異なります。上記はあくまでも指数の推移であり、本ファンドのデータではなく、また将来の結果を示唆または保証するものではありません。

## ▶ 基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額が変動します。また、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。信託財産に生じた損益はすべてご投資家の皆さまに帰属します。

## ▶ 主な変動要因

### 株式投資リスク（価格変動リスク・信用リスク）・集中投資リスク

本ファンドは米国の株式を主要な投資対象としますので、本ファンドへの投資には、株式投資にかかる価格変動リスク等のさまざまなリスクが伴うこととなります。本ファンドの基準価額は、株式等の組入有価証券の値動きにより大きく変動することがあり、元金が保証されているものではありません。特にテクノロジー関連企業等の株式の下降局面では本ファンドの基準価額は大きく下落する可能性が大きいと考えられます。また、本ファンドは、一定の業種に対して大きな比重をおいて投資を行いますので、業種をより分散した場合と比較して、ボラティリティが高く大きなリスクがあると考えられます。

一般に、株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況に応じて変動します。したがって、本ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があります。現時点において株価が上昇傾向であっても、その傾向が今後も継続する保証はありません。また、発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。

### 為替変動リスク

本ファンドは、外貨建ての株式を主要な投資対象としますので、本ファンドへの投資には為替変動リスクが伴います。とりわけ、対円で為替ヘッジを行わないBコースでは為替変動の影響を直接的に受け、円高局面ではその資産価値を大きく減少させる可能性があります。Aコースは対円で為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジを行うにあたりヘッジ・コストがかかります。（ヘッジ・コストは、為替ヘッジを行う通貨と円の短期金利の差が目安となり、円の短期金利のほうが低い場合、この金利差分、収益が低下します。）

### ※収益分配金に関わる留意点

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。また、ご投資家の皆さまのファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。お申込みの詳細については、販売会社にお問い合わせください。

▶ お申込みメモ

購入単位	販売会社によって異なります。
購入価額	購入申込日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が指定する日までにお支払いください。
換金価額	換金申込日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として換金申込日から起算して5営業日目から、お申込みの販売会社を通じてお支払いいたします。
購入・換金申込不可日	ニューヨーク証券取引所またはニューヨークの銀行の休業日(以下「ニューヨークの休業日」といいます。)
申込締切時間	「ニューヨークの休業日」を除く毎営業日の原則として午後3時まで
信託期間	原則として無期限(設定日: 1999年11月29日)
繰上償還	各コースについて受益権の総口数が30億口を下回ることとなった場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年5月30日および11月30日(ただし、休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年2回の決算時に原則として収益の分配を行います。販売会社によっては分配金の再投資が可能です。 ※運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。
信託金の限度額	各コースについて1兆円を上限とします。
スイッチング	スイッチング(乗換え)につきましては、販売会社にお問い合わせください。 ※スイッチングの際には換金(解約)されるファンドに対して換金にかかる税金が課されることにつきご留意ください。
課税関係(個人の場合)	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度(NISA)の適用対象であり、2024年1月1日以降は一定の要件を満たした場合にNISAの適用対象となります。本ファンドは、2024年1月1日以降のNISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象となる予定ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。 ※2023年8月25日現在のものであり、税法が改正された場合等には変更される場合があります。 配当控除の適用はありません。原則、分配時の普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)が課税の対象となります。

▶ ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	購入申込日の翌営業日の基準価額に、 <b>3.3%(税抜3%)</b> を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。
信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	純資産総額に対して <b>年率2.09%(税抜1.9%)</b> ※運用管理費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。 なお、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。
信託事務の諸費用	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、印刷費用など信託事務の諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.05%相当額を上限として定率で日々計上され、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	有価証券売買時の売買委託手数料や資産を外国で保管する場合の費用等 上記その他の費用・手数料は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

上記の手数料等の合計額については、ご投資家の皆さまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

▶ 委託会社その他関係法人の概要について

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(委託会社)

信託財産の運用の指図等を行います。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント・エル・ピー(投資顧問会社)

委託会社より株式(その指数先物を含みます。)の運用の指図に関する権限の委託を受けて、投資判断・発注等を行います。

三菱UFJ信託銀行株式会社(受託会社)

信託財産の保管・管理等を行います。

販売会社

本ファンドの販売業務等を行います。販売会社については下記照会先までお問い合わせください。

照会先	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社
	ホームページアドレス
	<a href="http://www.gsam.co.jp">www.gsam.co.jp</a>
	電話番号
	<b>03-6437-6000</b>
	受付時間: 営業日の午前9時から午後5時まで

※R&I ファンド大賞 2023

「投資信託部門」は過去3年間、「投資信託10年部門」は過去10年間、「投資信託20年部門」は過去20年間を選考期間とし、シャープレシオ<sup>1</sup>によるランキングに基づき、最大ドローダウン<sup>2</sup>を加味したうえで選考しています。表彰対象は償還予定日まで1年以上の期間があり、残高がカテゴリー内で上位50%以上かつ30億円以上であることが条件です。選考対象は国内籍公募追加型株式投信とし、確定拠出年金専用およびSMA・ラップ口座専用以外を対象としています。評価基準日は2023年3月31日です。上記評価は、過去の一定情報を分析した結果得られたものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

1 シャープレシオとは短期確定金利商品に対するファンドの超過収益率を収益率の標準偏差(リスク)で割った値です。リスク1単位当たりの超過収益率を示します。

2 ドローダウンとは、最大資産からの下落率のことであり、それらのドローダウンの最大となった値を最大ドローダウンといいます。